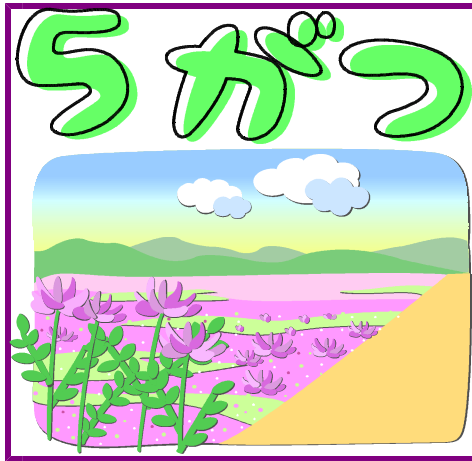


めぐみイエス・キリスト教会

2023年5月21日(日)第三主日礼拝

午前10時より

週報「通算第658号」



2023年標題聖句

第Iヨハネの手紙第5章4節～5節

《神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌420「雨を降り注ぎ」	p. 676
【交読文】	No.30 詩篇第96篇	p. 903
【賛美Ⅱ】	新聖歌416「聖霊来たれり」	p. 668
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲No.1「聖霊の風」	
【聖書朗読】	使徒の働き26章1節～23節(新約p. 289)	
【礼拝説教】	《パウロの三回目の弁明》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」	p. 236
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

●ポイント1.「アナニアに与えられた主イエスの預言」とは？

※使徒の働き9章10節～16節「ダマスコにて」 (新約p.250)

9:10 さて、ダマスコにアナニアという名の弟子がいた。主が幻の中で「アナニアよ」と言われたので、彼は「主よ、ここにおります」と答えた。

9:11 すると、主はこう言われた。「立って、『まっすぐ』と呼ばれる通りに行き、ユダの家にいるサウロという名のタルソ人を訪ねなさい。彼はそこで祈っています。

9:12 彼は幻の中で、アナニアという名の人が入って来て、自分の上に手を置き、再び見えるようにしてくれるのを見たのです。」

9:13 しかし、アナニアは答えた。「主よ。私は多くの人たちから、この人がエルサレムで、あなたの聖徒たちにどんなにひどいことをしたか

を聞きました。

9:14 彼はここでも、あなたの名を呼ぶ者たちをみな捕縛する権限を、祭司長たちから与えられています。」

9:15 しかし、主はアナニアに言われた。「行きなさい。あの人は私の名を、異邦人、王たち、イスラエルの子らの前に運ぶ、私の選びの器です。」

9:16 彼が私の名のためにどんなに苦しまなければならないかを、私は彼に示します。」

●ポイント2.「第一回目と第二回目の弁明」とは？

※使徒の働き22章1節～2節「イスラエルの子らに」 (新約p.281)

22:1 「兄弟ならびに父である皆さん。今から申し上げる私の弁明を聞いてください。」

22:2 パウロがヘブル語で語りかけるのを聞いて、人々はますます静かになった。そこでパウロは言った。

※使徒の働き24章10節「異邦人(フェリクス)に」 (新約p.286)

24:10 そのとき、総督がパウロに話すよう合図したので、パウロは次のように答えた。「閣下が長年、この民の裁判をつかさどってこられたことを存じておりますので、喜んで私自身のことを弁明いたします。」

●ポイント3.「パリサイ人の復活感とパウロの復活感」とは？

※ルカの福音書9章7節後半～8節「パリサイ派の信条」 (新約p.130)

9:7 ある人たちは「ヨハネが死人の中からよみがえったのだ」と言い、

9:8 別の人たちは、「エリヤが現れたのだ」と言い、さらに別の人たちは、「昔の預言者の一人が生き返ったのだ」と言っていたからである。

※ローマ人への手紙14章9節「使徒パウロの告白」 (新約p.320)

14:9 キリストが死んでよみがえられたのは、死んだ人にも生きている人にも、主となるためです。

◎先週の礼拝メッセージ【アグリッパ王とベルニケ】

《フェストゥスがローマからカイサリアに赴任して来た数日後、エルサレムからユダヤの王アグリッパ2世と妹ベルニケが、あいさつにやって来ました。アグリッパ2世とは、ヘロデ・アグリッパ1世の息子で、ヘロデ大王の曾孫にあたり、ベルニケとドルシラの兄にあたります。

また、ベルニケとは、ヘロデ・アグリッパ1世の2番目の子で、総督ペリクスの妻ドルシラの姉で、絶世の美女と言われており、13歳の時におじのヘロデ・カルキス王と結婚し、彼が紀元48年に死んだ後、兄のアグリッパ2世と近親相姦の關係を持つようになったのです。

それで、総督フェストゥスから「パウロの上诉」の件で、ベルニケは、兄アグリッパ2世と一緒に、パウロの弁明を聞くことになります。

以前に、父アグリッパ1世にも、使徒ヤコブ(ゼベダイの息子)を通して、悔い改めの機会が与えられました。しかし、ヤコブを殺害し、さらにペテロをも殺害しようとしてしました。また、前々国王であったヘロデ・アンティパスにも、恵みによって十字架に掛けられる直前の主イエス様にお会いするという、悔い改めの機会が与えられていました。

しかし、彼らは悔い改めることをせず、残念なことに、神様の裁きの中にこの世を去って行ったのです。

さて、後任となったローマ総督フェストゥスは在任中、治安維持において大いに業績を挙げ、問題を次々とかたづけて行きました。しかし惜しくも着任して2年後に若死にしたと伝えられています。しかし、彼自身も、パウロから主イエス様の福音を聞くことになったことも、主が備えられた「神の時」ではなかったのではないのでしょうか。

当時の世界でさえ、神様は様々な手段を用いて、悔い改めの機会を与えておられます。なおさら情報網が発達する現在では、さらに悔い改めと救いに導かれる機会が備えられていると思うのです。主イエスを信じ、従う人々が多く起こされます様、祈り求めて行きましょう。》

◎お知らせ

※次回ペンテコステ礼拝は、5月28日(日)午前10時からです。